The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ボーフラ退治のニューフェイス : タップミノー
Author(s)	高浜, 雅昭
Citation	makoto. 1973, 3, p. 3-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86271
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

る。

近年、殺虫剤による環境汚染が問題になっており、天敵利用による害虫駆除が検討されているなかで、タップミノーやグッピーを利用してのボウフラ駆除の試みは、世界各地で行なわれている。わが国においても各地で実施されているが、最初にタップミノーによるボウフラ駆除に成功した徳島市では一九六八年、東京から八〇〇匹のタップミノーを空輸、その一部は直接、廃田、下水溝に放魚し、一部は池に二次放魚用として放たれ、この池で増殖して随時、湿田、廃田、下水溝等に放魚された。その結果、今ではおびただしい数に繁殖し、従来から発生していたセスジャブカ、アカイエカなどの駆除に多大の効果をあげている。

大阪府下においても、昨年から高槻市の農業用水路で徳島市よりゆずり受けたタップミノーを放魚しており、本年のボウフラ発生期には、その効果があらわれるものと大いに期待されている。

なおタップミノーと在来種のメダカ、グッピーとの区別については表1を参照されたい。

ボーフラ退治のニューフェース

タップミノー

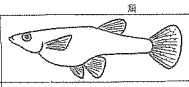
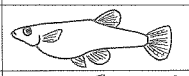
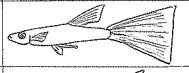
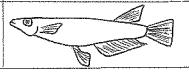
大阪府衛生部環境衛生課
高浜雅昭

タップミノーは熱帯魚でおなじみのグッピーと同じ胎性メダカ科の淡水魚で、原産地は北米南部のテキサス州からフロリダ州にかけての地域である。

本種はグッピーと比べると低水温に強く（表面にうす氷のはる水域にも生存可）、わが国では一九一六年台湾から移入されて以来、関東以西の各地で生存が確認されている。

和名はカダヤシ（蚊絶し）と言い、その名のとおりボウフラはもちろんミジンコなどの動物質の生餌を好んで食べる。そのうえアカイエカ、チカイエカなどの発生が多い下水溝、汚水槽のような汚水にも強く、メダカの住めないような水域にも十分棲息することができ

表1　タップミノー、グッピー、メダカの比較

種類		特徴	
タップミノー 雄		大	グッピーの雌との差は背ビレの前端が尻ビレの後端より後方にある。
タップミノー 雌		小	尻ビレが体長の$\frac{1}{3}$位
グッピー 雌		大	背ビレの前端が尻ビレの後端より前方にある
グッピー 雄		小	尾ビレは色彩豊か 背ビレも同じ 尻ビレがタップミノーより短かい
在来種 メダカ 雌雄ほぼ同形		雌雄ほぼ同じ	尻ビレは矩形